講義名	対)言語と社会（20）					授業形態	
担当教員	森　宏子／池田　俊之	開講期・曜日・時限	前期 水曜日 ２時限				
		単位数	2	履修開始年次	１年生	ナンバリング	

主題と概要

本学独自のCan-doリストに基づ　き、英語と中国語の基本的な定型表現を身に付けることによって、異文化と多様性を理解する態度・姿勢を育成します。全15回の授業を前半7回・後半8回に分けて、英語と中国語の二言語を学習します。なお、クラスによって、英語中国語あるいは中国語英語と授業進行が　異なります。英語中国語のクラスは後半の中国語が　8回、中国語英語のクラスは後半の英語が　8回となります。

到達目標

英語と中国語の二言語の基本的な特徴と構造を理解し、短期間海外に滞在することなど　を想定しなが　ら、ホテル・食事・買い物など　の実際の場面で　初歩の会話が　て　きるようになる。

提出課題

適宜指示します

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

小テストは次回の授業で　返却し、簡単に講評を行います。（中）

評価の基準

評価の内訳は以下の通り（英・中とも同じ　）：クイズ　（毎回授業で　実施する小テスト）50%、授業参加度・授業態度50%。両言語の評価の合計を100点に換算。

履修にあたっての注意・助言他

１．テキストは必ず　各自購入し、初回の授業に持参してくだ　さい。テキストを持参しない人は、もっとも大きな減点となります。 なおテキストの注文はクラス分け発表を確認してからにしてくだ　さい。

２．新型コロナウイルス感染症の感染者や濃厚接触者に指定され一時的に通学が禁止となった学生には、別途個別に対応します。

教科書

.言語と社会.			500	

参考図書

その他

授業中に適宜資料を配布します。参考文献は適宜指示します。

授業計画

1. 英語Unit 1: Introducing yourself
2. 英語Unit 2: Talking about interests and hobbies
3. 英語Unit 3: Airport and immigration
4. 英語Unit 4: Hotel
5. 英語Unit 5: Fast food restaurant
6. 英語Unit 6: Shopping
7. 英語Unit 7: Directions
8. 中国語第1課「中国のひと・くに・ことば　」
9. 中国語第2課「中国語のしくみを知る」
10. 中国語第3課「自己紹介」
11. 中国語第4課「あれは何て　すか?」:
12. 中国語第5課「きょうだ　いはいますか?」
13. 中国語第6課「ど　こへ行くので　すか?」
14. 中国語第7課「今日はわたしがごちそうします」
15. 英語/中国語: まとめUnit

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

（英・中共通）予習として、次の授業で　学ぶ　ユニット（課）に目を通しておきましょう。授業内容を知り、自分のわかるところわからないところを事前に把握しておけば　、次の授業にスムーズ　に入っていけますし、授業の理解度が　格段にアップ　します。
（英語）
授業前に、各ユニットの重要単語の意味を調べ　て来てくだ　さい。（2時間）
授業後は、各ユニットの小テストが　毎回あるので　、復習を行ってくだ　さい。（2時間）
（中国語）中国語は、大半の人にとって初修の言語で　すから、学ぶ　ことすべ　てが　新しく、最初は覚えることが　たくさんあります。中国語は予習はそこそこ、復習はしっかり重点的に行ってくだ　さい。とくに単語はその都度しっかり頭に入れていく必要が　あります。毎回単語帳（ワークシート）を別途配布します。単語帳や授業中にて　きなかったト　リルは宿題とします。（予習:1時間半～2時間、復習:2時間～2時間半）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、商学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」・経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成果の基礎」・人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考